



落合第一地区協議会だより

みどりの風

第14号

編集・発行 落合第一地区協議会：03（3951）9196（落合第一特別出張所内）

平成25年7月15日 発行

今年もみどりのカーテンを！



今年の桜はとても早くに咲いたが、その後、4月は低温が続き、つる性植物の時期はまだまだ遠い先の事のように思われる中、「ゴーヤの苗の配布」の募集が始まった。

応募する人が少ないのでは？と危惧していたのに対し、50人定員を軽く超えてしまったと、みどり・環境部はうれしい悲鳴を上げた。環境省が推奨する「クール・ビズ」に加えて、今年は「スマート・ハウス」（家のクーラーを止め、自然の風で涼を取る）の影響だろうか？それとも、ゴーヤと朝顔のセットが良かったのだろうか？

5月12日、苗配布の会場は日曜日の午後という事も手伝ったのかご夫婦、ご家族連れも多かった。

育て方の説明会はエコライフ推進員の赤荻氏が新宿環境学習情報センター発行の『新宿みどりのカーテン・ハンドブック』とスクリーンを駆使し、土の作り方から順を追っての講師の体験談もふくめての説明が続いた。

参加された方のアンケートにも「育て方で親ヅルの摘心」や「最初の花（一番花）は摘む」ことを知らなかったとの声が多かった。

落合は今年もみどりのカーテンで覆われることだろう。



▲エコギャラリーの御所窪センター長に、『新宿みどりのカーテン・ハンドブック』をお持ちいただき、説明を受けました。



便利な自転車



地区協議会では無灯火防止キャンペーンを隔月に行い、自転車による事故を無くすために、安全走行をお願いする活動を続けています。

過日、目白通りで前と後ろに子どもを乗せ、携帯電話で話しながら走っていく自転車とすれちがいました。「危ないな〜!」と思わず声が……。片手走行すら危険なのに前後に子どもを乗せているなんて!!

戸塚警察署交通課によると、今年、6月18日現在までに私たちの住んでいる戸塚署管内では、124件の自転車事故が発生したそうです。幹線道路と裏路地では4対3の割合で発生しており、ドア開放による事故がもっとも多く、次に出会い頭の事故だそうです。

落合地域では、3月6日の午後9時ごろ乗用車による自転車のひき逃げ事故がありました。

守ってください 自転車安全利用五則

- 1 自転車は車道が原則、歩道は例外
- 2 車道では左側を通行（自転車は軽車両と位置づけ）
- 3 歩道では歩行者優先、自転車は車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る
- 5 子どもはヘルメットを着用



近年はライトの付いてない自転車や、ブレーキの付いてない自転車を見かけます。

私たちにとって買い物や子どもの送り迎えなど、身近な自転車だからこそルールを守り、安全に利用すべきではないでしょうか。

第5回 地区協フエスタ

開催決定!

11月10日(日) 午後1時~4時
落合第一地域センターにて



昨年より、ワンランクアップして皆さまのご来場をお待ちしていま〜す!

安全・安心部

危険箇所改善要望

昨年度調査した落一管内の危険箇所の改善を5月15日に区役所（みどり土木部道路課）に要望書を提出しました。提出した案件に対しての回答と現状をお知らせします。

要 望 内 容	回 答
1 道路標示が不鮮明な箇所 ①霞坂下 ②久七坂出口 ③下落合公園から地域交流館へ向かう道の入口	1 ① } 修理済み ② } ③ 私道のため区の管轄外
2 相馬坂関係 ①「落四小」校門前の取外し用ガードレールの沈下 ②「落四小」側の壁下石畳の損傷	2 ① } 修理済み ② }
3 聖母坂上り口近くの脇道と駐車場の間にガードレールがなくて危険	3 私道部分を避けて、ポールを3本設置した



1-① 霞坂下



2-① 落合小前のガードレール



3 駐車場横のガードレール



聖母坂通りが歩きやすくなります



聖母坂通りの歩道には中央に電柱があるところもあり、ベビーカーや車いすが通りづらいという声が上がっていました。

聖母坂の無電柱化は、阪神淡路大震災を踏まえ、ガードレール内のバリアフリーと電気・ガス・水道・通信といったライフラインの地中化の要望の声は、より一層大きくなっていました。平成19年7月の『区長と話そうしんじゅくトーク』を機に、新宿区みどり土木部ではさまざまな角度から検討を始め、その都度、地区協議会に経過報告がありました。

聖母坂は全長587m、道幅は最大で9.8mと狭いうえ、すでに地中（地下）には上下水道が通っています。電柱のかわりに、地上にトランス（変圧器）をどこに置かなど、さまざまな難問が上がったそうです。

工事期間も夜間中心のため5年間と長くなりますが、42本の電柱が無くなれば景観も良くなり、快適で安全な歩行が出来るのではないのでしょうか！



▲地上トランス



編集後記

夏草や兵（つわもの）どもが夢の跡（芭蕉）

春から夏は、雑草の勢力拡大の季節である。道端や空地は多くの雑草が競い合っている。しかし、殆どが外来種で欧米原産が多い。例えば、クローバー（シロツメクサ）は江戸時代、ヨーロッパからガラス器を運ぶときパッキングとして詰められたり、明治時代牧草として渡来したのが全国に広がった。また、キク科のハルジオンやヒメジョオンは、北アメリカ原産で明治時代に渡来した。

最近、新参のナガミヒナゲシ（地中海沿岸地方原産）が勢力を拡大しつつある。このケシは50年ほど前に世田谷区で見つかり、街道筋から広がり路地裏まで侵入して来ている。欧米勢力に囲まれて在来種のドクダミやツユクサたちが負けじと頑張っている姿が頼もしい。

しかし、この季節、雑草は害虫と共に園芸家を悩ませている。また、ブタクサ（キク科・北アメリカ原産）による花粉症が拡大しているので要注意！（T.U.）